海南市 内水ハザードマップ

ハザードマップの活用

ステップ1
自宅や仕事場、学校など普段生活している場所をハザードマップで確認し、災害の危険性がある場所を確認しましょう。

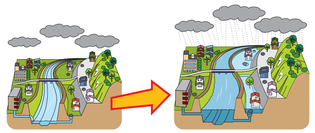
ステップ2
災害に備え、避難先を確認しましょう。
- 自宅にいるとき、仕事場にいるとき、学校にいるときなどを想定し、それぞれ最寄りの避難先（緊急避難場所）を確認しておきましょう。
- 逃げ遅れた場合などに備え、身近なところで少しでも安全な場所を確認しておきましょう。

ステップ3
避難経路を検討しましょう。
- ハザードマップの内容などから危険の少ない安全な経路を検討しましょう。
- 家庭や地域で話し合い、避難先や避難経路、地域で危険と感じているところをマップの中に書き込みましょう。
- 実際に避難経路を通って、避難場所へ行ってみましょう。

ステップ4
安全に避難する方法を理解しておきましょう。
- 情報の入手方法や災害対応に関する知識を深めるとともに、安全かつ確実に避難する方法を身につけましょう。
- 一人で避難することが困難な方（避難行動要支援者）もいます。避難の際には隣近所で声を掛け合うなど、地域の助け合いを忘れないようにしましょう。

内水氾濫が起こるまで

排水施設の処理能力を超えるような大雨が降ると、雨水を排水しきれず道路などに水がたまっていきます。行き場を失った雨水が地表にあふれ出す現象を「内水氾濫」と呼びます。内水ハザードマップでは、この内水氾濫が発生した場合に想定される浸水範囲を示しています。



排水施設の能力を超える大雨によって、雨水が排水しきれずに道路等にたまっていきます。

降った雨が行き場を失って、地上にあふれます。これが内水氾濫です。

避難行動判定フローを確認しましょう

「避難行動判定フロー」をハザードマップの地図面とあわせて確認し、居住する地域の災害リスク（浸水想定区域や土砂災害警戒区域）を考慮したうえで、とるべき避難行動や避難先を確認しておきましょう。

平時に確認

避難行動判定フロー　あなたの避難先は？

ハザードマップで自分の家を確認
自宅がある場所は浸水想定区域や土砂災害警戒区域に入っていますか？

はい

いいえ
周りより低い土地などにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

災害の危険があるので、原則立退き避難（自宅の外に避難）が必要です

避難先❶　安全な親戚・知人宅などへ

浸水・土砂災害警戒区域外の避難先へ避難

知人や親戚宅

避難先❷　緊急避難場所など

ハザードマップに記載された緊急避難場所や地域で決めた避難場所などへ避難

避難のタイミング

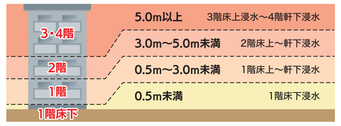
警戒レベル3	高齢者等避難	避難に時間のかかる高齢者や障害者は避難	警戒レベル4	避難指示	危険な場所から全員避難

例外

自宅上階などの安全な場所に避難
避難先❸
屋内安全確保

「3つの条件」が確認できれば、浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

❶浸水深より高い位置に居室がある



❷家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
入っていると…
洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれがあります。

❸水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分
十分でないと…
水、食料等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります。

大雨・洪水に関する注意報・警報

下記のような場合、気象庁は「注意報」「警報」を発表します。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し、最大級の警戒を呼びかけます。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	「警報」よりも、はるかに高い危険度
大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	**大雨** 大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	**大雨** 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したときに発表。
洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	**洪水** 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性はあります。

1時間の雨量と降り方

例えば「1時間に50ミリの雨」というのは、雨水が別の場所に流れず、そのままたまった場合で「1時間に雨水が50ミリメートルの高さまでたまる」規模の雨のことです。

雨量	少ない → 多い				
1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
雨の強さ	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
雨の降り方	ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。	ゴーゴーと滝のようにふる。傘は全く役に立たなくなる。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
市民の行動	気象情報やハザードマップを確認しましょう。		浸水想定区域に住んでいる方は家庭でできる対策や避難の事前準備をしましょう。	浸水想定区域に住んでいる方は避難情報に留意しましょう。避難場所が浸水して利用できない場合もあります。避難の時には、正確な情報を収集し、危険な場所に近づかないようにしましょう。	

※警報の発表や市からの指示がなくても状況に応じて、素早く避難しましょう。

避難情報と警戒レベル

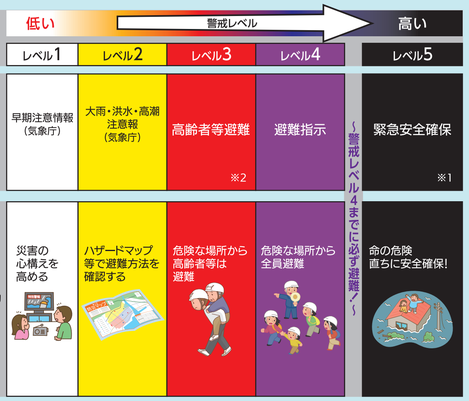
災害時に、避難行動が容易にとれるよう、住民がとるべき行動を5段階に分け、防災情報を提供します。

警戒レベル1～2は気象庁が発表、警戒レベル3～5は海南市から発令します。

警戒レベル5は既に災害が発生している段階です。警戒レベル5になってから避難を始めると、逃げ遅れる可能性があります。警戒レベル5を待たずに、警戒レベル4の避難の情報が出たら全員避難を始めてください。

警戒レベル	低い → 警戒レベル → 高い				
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
避難情報等	早期注意情報（気象庁）	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）	高齢者等避難 ※2	避難指示	緊急安全確保 ※1
住民がとるべき行動	災害の心構えを高める	ハザードマップ等で避難方法を確認する	危険な場所から高齢者等は避難	危険な場所から全員避難	命の危険 直ちに安全確保!

～警戒レベル4までに必ず避難！～



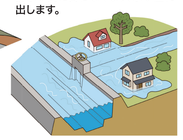
※1　市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
※2　避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
※3　警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

予想される災害

大雨が降り、道路側溝にごみ等が詰まり、うまく排水されず、道路に水が溜まります。

高速道路の高架下や地下道等、道路が低くなっているところに雨水が溜まります。

大雨で河川の水位が上がると、排水が間に合わなくなり、水が溢れ出します。



情報の入手方法

気象情報や災害情報は、テレビやラジオのほか、下記のホームページなどで確認できます。

ホームページ等

海南市ホームページ	メール配信サービス
防災行政無線	公式LINE
緊急速報メール（エリアメール）	

海南市公式LINEアカウントの登録方法
二次元コードを読み取り、「追加」ボタンを押して登録。
登録用

海南市メール配信サービスの登録方法
気象情報や防災情報をメールで一斉配信しています。

登録方法
❶ 下記アドレスに空メール（件名・本文空欄）を送信※
bousai.kainan-city@raiden3.ktaiwork.jp
❷ 本登録案内メールが届くのでメール内のURLを選択
❸ 配信情報を選択して、「次へ」を押す
❹ 入力内容を確認し、配信情報を登録して完了
登録用
※右の二次元コードでアドレスを読み取ることも可能です。

情報通信メディア

気象庁ホームページ
気象情報等を確認することができます。

キキクル
大雨による災害の危険度を確認することができます。

和歌山県河川／雨量防災情報ページ
河川の水位や雨量等を確認することができます。

テレビ和歌山データ放送
①テレビ和歌山にチャンネルを合わせる。
②リモコンの**d**ボタンを押す。
③赤色ボタン（市町村情報）を押す。

災害用伝言サービス

大規模な災害が発生した場合に開設される、安否確認のための伝言サービスです。

災害用伝言ダイヤル171　・・・電話で安否情報（伝言）の録音・再生を行うことができます。

171をダイヤル → 録音するときは1をダイヤル / 再生するときは2をダイヤル → 被災地の方も、被災地以外の方も → 被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする → 伝言を入れる / 伝言を聞く

災害用伝言板　web171　・・・スマートフォンやパソコン等で、文字による安否情報（伝言）の登録・確認を行うことができます
URL https://www.web171.jp/
※上記の他に携帯電話各社の「災害用伝言板サービス」もあります。利用方法については各社ホームページ等でご確認ください。

海南市ホームページ
https://www.city.kainan.lg.jp/index.html

防災海南
https://www.city.kainan.lg.jp/bosai/maildelivery/index.html

国土交通省 防災情報提供センター
https://www.jma.go.jp/jma/index.html

国土交通省 川の防災情報（地域選択）
https://www.river.go.jp/index

●防災関連機関等の連絡先

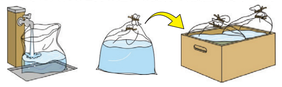
名　称	電話番号	名　称	電話番号
消防	119	海南市役所	073-482-4111
警察	110	海南市消防本部	073-482-0119
		海南警察署	073-482-0110

家庭で出来る浸水防止対策（自助対策）

浸水被害から家屋を守る

ごみ袋による簡易水（すい）のうの作り

中に1/4程度（10kg程度）の容量のごみ袋を二重にし、中に半分程度の水を入れ中袋をひもで縛り、外袋もひもで縛ります。段ボール等に入れると持ち運びも便利で、設置も簡単です。



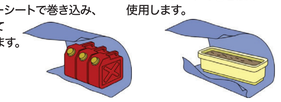
止水板による方法

簡易水（すい）のうを作り、長めの板等と組み合せて利用し、浸水を防ぎます。

ポリタンク・プランターとレジャーシートによる方法

10リットル又は、20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用します。

土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。

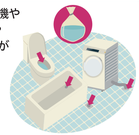


吸水性ゲル水（ガ）のうによる方法

土のうの代替として市販の吸水性ゲル水（ガ）のうを使用します。コンパクトですが、水を吸うと膨張します。

思わぬ場所からの浸水の防止

浸水時には、洗濯機やお風呂の排水口やトイレ等から下水が逆流することがあります。水のうでふさぎ対応しましょう。



地下室への日ごろの準備

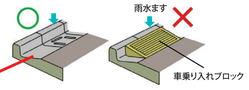
地下室がある建物では、土のうや板等を事前に準備しておきましょう。

平常時における雨水ます周辺の清掃

雨水ますの取水口が落ち葉やゴミで詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。雨水ます周辺の清掃にご協力ください。

排水溝造物の点検

雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロック等を置かないようにしましょう。



避難の心得

日頃から、避難する際に必要なことを整理し、家族で避難の手順を話し合っておきましょう。また、災害が発生するおそれのあるときには、早めの避難を心がけしましょう。

状況により、すばやく避難しましょう
警報の発表や市からの指示がなくても状況に応じて、すばやく避難しましょう。

集団で避難しましょう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で避難しましょう。

車での避難は控えてください
車は、役30㎝の浸水で走行困難になります。車での避難は注意しましょう。

安全な経路で避難しましょう
川や用水路の近くなどは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

非常持ち出し品は最小限に
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

避難場所では係の人の指示に従いましょう
避難所に着いたら、住所、氏名などを報告しましょう。

水平避難と垂直避難

災害時には、早めの避難が重要です。ただし、避難経路が浸水しているときなど、屋外での歩行等が危険な状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、がめや浸水区域から離れる（水平避難）だけではなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）するという判断も必要です。また、土砂災害警戒区域では、山と反対側の部屋に避難することも安全確保につながります。

浸水等による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、近隣建物の高層階や、自宅の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

避難行動要支援者について

高齢者、障害者、乳幼児等の特に配慮を要する方（要配慮者）のうち、災害時の避難に支援が必要な方を、避難行動要支援者といいます。避難が必要となった場合は、地域で協力し、心身の状態に合わせた避難支援や安否確認を行いましょう。なお、要配慮者が利用する施設の一覧はこちらから確認できます。

高齢者・病人
- 必要に応じて、おぶって避難する。
- 複数の介助者で対応する。

耳の不自由な方
- 話すときは口を大きく開け、ゆっくりと伝える。
- 手話、筆談、身振りなどにより、視覚的に情報を伝える。

肢体の不自由な方（車椅子）
- 階段では複数人が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを着け、おぶって避難する。

目の不自由な方
- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。

要配慮者利用施設はこちら

●非常持ち出し品

避難の際に持っていくものを準備し、リュックサックなどにまとめて持ち出しやすい場所に置いておきましょう。

食料
- □ 飲料水（1人1日3リットルを目安）
- □ 非常食（アルファ化米、レトルト食品など）
- □ 携帯食（チョコレート、キャンディーなど）
- □ 粉ミルクと哺乳瓶（乳児がいる場合）

※アレルギー対応が必要な方や高齢の方は、特に自分に必要なものを多めに準備しておきましょう。

救急・安全対策
- □ 持病の薬、お薬手帳
- □ 常備薬（胃腸薬、かぜ薬など）
- □ 包帯、ガーゼ、ばんそうこう
- □ 傷薬、消毒薬
- □ 体温計、手指消毒剤
- □ ヘルメット、防災ずきん
- □ ホイッスル、防災ブザー

※服薬している方などは、かかりつけ医に相談しておきましょう。

貴重品
- □ 現金（小銭を含む）
- □ 預貯金通帳、印鑑
- □ クレジットカード類
- □ 健康保険証
- □ マイナンバーカード、免許証など
- □ 避難カード、緊急連絡先を記載したもの

衣類など
- □ 衣類（厚手の物と薄い物）
- □ 下着類
- □ タオル
- □ 手袋、軍手
- □ 寝袋
- □ 雨具
- □ 防寒シート

※季節ごとに入れ替えをしましょう。

日用品など
- □ 携帯トイレ
- □ ポリ袋（ビニール袋）
- □ 新聞紙
- □ ライター、マッチ
- □ ティッシュペーパー
- □ ウェットティッシュ
- □ 懐中電灯（予備電池）
- □ 携帯ラジオ（予備電池）
- □ 携帯電話（充電器・バッテリー）
- □ 筆記用具（油性マジック）
- □ 洗面用具（歯ブラシ等）
- □ メガネ
- □ マスク
- □ 使い捨てカイロ
- □ 紙おむつ、おしりふき
- □ 生理用品
- □ 布ガムテープ
- □ 水のいらないシャンプー
- □ からだ拭きウェットシート
- □ 地図（ハザードマップ）

●備蓄品

日頃から、7日分程度の食料と飲料水などを備蓄品として常備しておきましょう。

食料
- □ 飲料水（1人1日3リットルを目安）
- □ 米（缶詰やレトルトのご飯なども便利）
- □ 缶詰や日持ちする野菜
- □ 粉ミルク・離乳食

燃料・日用品など
- □ 携帯トイレ、トイレットペーパー
- □ カセットコンロ、ガスボンベ
- □ 毛布、寝袋
- □ ブルーシート
- □ 割り箸、紙皿
- □ 新聞紙
- □ ポリタンク、給水袋
- □ キッチン用ラップ
- □ ペット用品

「ローリングストック」を心がけましょう

備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことを「ローリングストック」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。

わが家の避難先

避難場所 名称： 自宅からの時間：	メモ：